いずみ
発行所
福井県大野郡
和泉村公民館
印刷所　松浦印刷所

三十六年度当初予算
一億八千五百万円
災害復旧費 七一%をしめる

去る三月二十七日より三十一日まで会期五日間で、和泉村第十九回定例議会が開かれ、昭和三十五年度追加更正予算ほか二十三件が議決され、災害復旧、電源開発等多事の様相を提したが、次の村長説明はその一端を示している。

今年は思いの外雪が多うございましたので、交通の便が妨げられ一回の出張にも数日を費しました関係上、当初予算の査定も早くから着手出来なかつた為に、議会の開会も遅れまして今日に至りました次第です。

さて今年度当初予算の総額は一億八千五百四十三万九千円でございますが、その主なものは昨年同様災害復旧事業でありまして、

公共土木の災害復旧が
三十四災分　一四三七万八千円
三十五災分　四四四四万七千円

計　五八八二万五千円

耕地関係の災害復旧が
三十四災分　一六八七万九千円
三十五災分　二六一三万五千円

計　四三〇一万四千円

林道関係の災害復旧費
三十四災分　一九六四万八千円
全関連復旧　一四三万五千円
三十五災分　九九二万三千円

計　三一〇〇万六千円

で大計は
一億三二八四万五千円

であります。従いまして、総予算額の七一・六パーセントは災害復旧費であります。従いまして残余の二八・四パーセントの五二五九万四千円が、その他の災害復旧費以外の経費ということになりますが、この中には

①今年は中学校の生徒が急激に増加しますので、之に対処する為中学校の建設費として
大納中学校新築に
七七〇万二千円
東部中学校増築に
五二八万三千円

計　一二九八万五千円

を計上し

②また本年はダム問題が本格化して参りましたので電源開発対策費として
三〇〇万円
又この問題に関する現在の和泉村の実態を映画のフィルムとして残したいという公民館の計画に対し
一〇〇万円
を計上し
計　四〇〇万円

で、先に申上げました災害復旧と中学校の建設費並びに電源開発対策費の総計
一億四九八三万円
を総予算額から差引きました
三五六〇万九千円
が大体経常費と見做されるものであります。即ち総予算額の一九・二パーセントで二割足らずが経常費で、この八割余の事業費執行の為には、種々の経費が増高致しますし関係上、今年は一般経費においては極力これを切りつめて参らねばなりません。

尚朝日中学校講堂修繕並びに寄宿舎増築費、後野分校ステージ増築費等については実情と今後の見透し等をよく検討して追加予算に於て考慮する所存であります。

以上、和泉村今後の動向は端的に申し上げますならば

第一に、ダム問題に対処して将来の和泉村の再建と村民の生活をどうあらしめるかという問題が最大の課題となります。

第二に災害復旧を出来得べくんば今年中にその大部分を完遂して来年頃からはダム問題一本に重要課題をしぼつて行きたい。従つて村民各位もまた現在置かれている重大な時期を深く認識せられまして、あらゆる面に於ける御辛棒がお願いしたい。

以下略

強調目標

火災予防

一、火事は人災です
二、一軒の油断が皆んなの災難
三、春の火足は目に見えぬ早さ
四、山火事も各所に起っている
五、毎日毎時気をつけよう。

瞬間の油断が大火のもと

表彰
（三月七日）

県消防協会長表彰
辻善久分団長

歳入の部

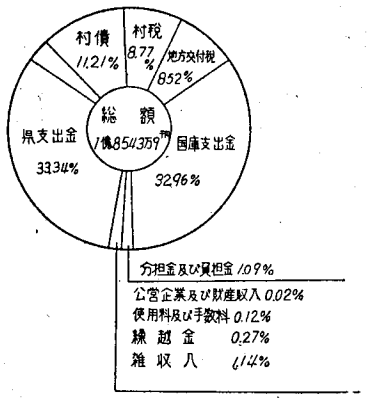
款別	金額
1 村税	15,147,000
2 地方交付税	15,800,000
9 公営企業及び財産収入	93,000
10 分担金及び負担金	2,016,800
11 使用料及び手数料	223,100
12 国庫支出金	61,113,400
13 県支出金	61,821,600
14 繰越金	5,858,100
15 雑収入	500,000
16 村債	2,126,000
17 特別会計繰入金	20,800,000
計	185,499,000

歳出の部

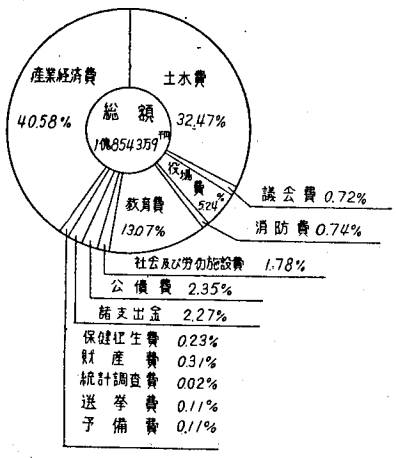
款別	金額
1 議会費	1,343,200
2 総務費	9,722,700
3 民生費	1,375,500
4 衛生費	60,209,000
5 労働経済費	24,232,700
6 農林業費	3,908,100
7 商工費	420,000
8 土木費	75,255,700
9 消防費	580,000
10 教育費	94,000
11 社会及び労働施設費	210,000
12 公債費	4,948,100
13 諸支出金	4,205,000
14 予備費	195,000
計	185,499,000

款別集計表

歳入



歳出



ダム問題のその後

県会の決議は遺憾
和泉村議会 声明書を発表

二月号のいずみに、一方的起業者支持の決定や運動は今後奥越電源開発の決定が政治問題化し、その為に地元和泉村にとつて迷惑至極な事である旨発表し、村議会に於ては三月号に掲載した通りの決議をして中央政界は勿論、県内各機関にも発表し、県並びに県議会の動きに対し、特にダム構築によつて一番被害を蒙る和泉村民を刺激しない様慎重なる処置を望むと共に速かなる決定を願つた訳であるが、遂に三月二十六日自民党県議員会に於て一方的支持が決定した情報に接し、時恰も開会中の村議会を休会して、大挙而も二十七日早朝県知事さんを始め県会議長及び特別委員長に対し、県会の議決をやめていただくように繰り返し陳情し、村内の実情を訴えて参りましたが、総べての願いも入れられず、同日全会一致北電支持が議決された次第であります。

九頭龍川上流奥越地域の電源
開発促進に関する要望決議

本県九頭龍川上流奥越地域の電源開発に関しては、昭和三十二年いらい実に四カ年の永きに亘り北陸電力株式会社と電源開発株式会社の競合のまま現在に至つており両者においては既に現地の基本的調査測量等もほゞ完了しており、中央の電源開発調整審議会においても諸般の準備を整え、近く企業者等の決定をなす段階にあると仄聞しておるが、思うに奥越電源開発事業こそ本県百年の大計であり本県の産業発展、民生安定の諸施策の基盤にして、七十五万県民の斉しく要望するところであり、本議会としても昭和三十二年十二月いらい特に電源開発促進特別委員会を設置して、慎重に研究検討を続け、早期着工、早期完成を目途に、本議会一丸となつて銃意努力して今日に至つた次第である。

本年一月本県をはじめ北陸地方住民の熱願せる北陸地方開発促進法が成立して、今や北陸地方の後進性を打破して、地域住民の繁栄と福祉増進のため多角的な開発事業が積極的に展開されんとしているが、本県にとつて先ずもつて解決し実現しなければならない命題は、この電源開発事業であり、豊富にして低廉なる電力こそ後進地域開発の根本的要件であることは言をまたないところである。

亦この着工が、これ以上遷延することは、徒らに地元住民の不安動揺を益々増大せしめることゝなることはもちろん、伊勢湾台風による尊い人命の犠牲をはじめ甚大なる被害を蒙つた惨状にかんがみ九頭龍川の抜本的治水対策は言うにおよばず、流域一帯の治山利水対策等万般に亘り極めて重大なる支障を来たすものである。

よつて早期に九頭龍川総合開発の県体化をはかるとともに、次の理由によりこれが起業者を北陸電力株式会社に指定せられ、県民の総意である奥越電源開発の早期実現をはかられたい。

一、北陸電力株式会社の開発構想は電力の管内供給を第一義としており、このことは県総合開発計画達成上の原動力となるものであるが、電源開発株式会社は全国的視野に立つた広域運営に重点がおかれること。

二、地方的又は全国的渇水時の場合、地元電力会社が大容量貯水発電所をもつていることは地元産業に必要である。

三、九頭龍水系の既開発はそのほとんどが北陸電力株式会社に属しているが、河川流量の有効利用と電力需給の効率的操作の観点から、同一企業体による水系一貫的開発がなさるべきであること。

四、地域経済の発展と地元企業体の育成とは不可分の関係にあること。

尚この事業遂行に当つては左記条件達成のため、県議会は県と一体となり、水没等関係住民に対しては補償の確保等に関し万遺憾なきよう最善の協力を行うものとする

記

一、水没関係住民に対しては、納得するに足る正当にして且つ最善の補償並びに処遇を行うとともに、代替施設の設置供与についても最善をつくすこと。

二、残存者は出来得る限り少くするとともに、その補償並びに処遇についても前項により措置すること。

三、地元和泉村の再建についても最善の措置を講ずること。

四、工法については政府の決定に従い、将来に禍根を生ずる虞なきを期することはもちろん、治山治水、利水対策上も最善をつくすこと。

五、国鉄越美北線の和泉村朝日までの開通に全面的に協力すること。

六、荒島トンネルの貫通および金沢～岐阜線の改良改修に協力すること。

七、豊富にして且つ低廉な電力を本県に優先供給すること。

八、労務資財等事業施行に当つては本県より優先調達すること。

九、早期着工、早期完成を期すること。

右決議する。

昭和三十六年三月二十七日

福井県議会

それで村並びに村議会として、止むなく別掲の様な声明を決議すると共に、今後の対策に目下衆知を結集し、村民の世望に副うべく日夜検討と努力を続けて居られる様であるから、又次号にその顛末をお知らせする事と致します。

此の間三月二十二日大野市に於ける県、県議会、本村及び大野市の懇談会及び二十五日、県会総合開発特別委員会等に村の代表者が出席して、一貫せる和泉村の方針と、よつて来る窮状を累々開陳して参つた総べてが踏みにじられ、新たなる決意を迫られつゝあることを村も村民も一丸となつて深く認識しなければなりません。

なお参考までに北電案と電発案の概要を添付したので対照してみて下さい。（一部は二面に）

◇

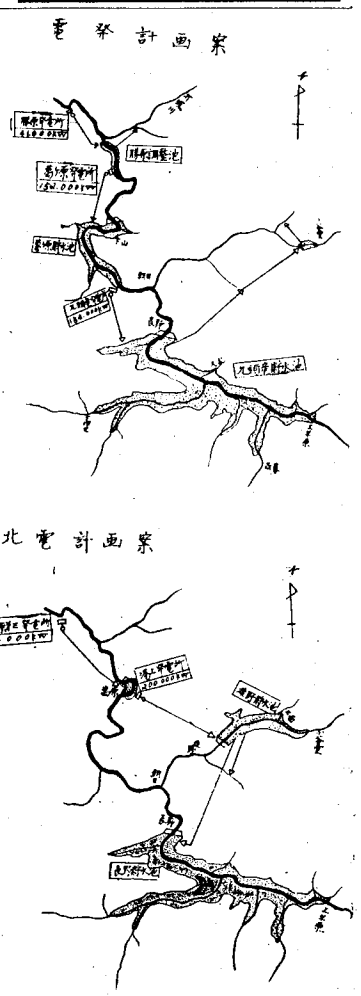
声明書

九頭龍川電源開発の問題は電発、北電両社の現地調査も終り、関係官庁および両社に於て最終的検討が行われており近く電源開発審議会に於いて起業者決定があるものと予想されていたのであつたが、先般の県議会に於いて北電支持の決議並びに知事の意思表明等に依り、複雑な政治問題化し、中央に於ける起業者決定を遅らせる惧が濃厚になつたことは誠に遺憾である。

右声明する

昭和三十六年三月三十一日

和泉村議会



計画上の重要な相違点　（通産省提出資料）

北電案	電発案
九頭龍川本流および石徹白川以方にダムをつくり、圧力トンネルの連絡水路により二つの貯水池で一体として運用する。	九頭龍川本流に二つの大ダムを築造し、石徹白川よりは自流式トンネルにより長野貯水池へ導入する
両貯水池とも重力式コンクリートダムを採用。	長野ダムはロツクフイル式、葛ケ原ダムはアーチ式を採用
北電の既設、西勝原第一および西勝原第二の二つの発電所は発電力量は減少するが廃止しない。	北電の三つの既設発電所西勝原第一、西勝原第二および東勝原は廃止される。
湯上発電所を揚水式にすることが出来る。	九頭龍川発電所は水路が短いので将来の揚水発電に有利。
勝原、朝日間の越美北線は計画通り実施することができる。	勝原、朝日間の越美北線はルート変更を必要とする。
岩洞鉱区内には水路は通らない。	岩洞鉱区内を水路が通る。

拠出制国民年金保険料
いつどうして納めたらよいか

四月一日より拠出制国民年金保険料を納付することになりました。年金法からいいますと、毎月国民年金印紙を役場で買い年金手帳にはり、役場で検認していただく仕組でありますが、被保険者の皆様に便利で納めやすい体制を取るため、和泉村としましては次の方法で納めていただくことになりましたからぜひ期限までに納めて下さい。

一、三カ月分まとめて次の日までに納付する。
四、五、六月分　六月三十日
七、八、九月分　九月三十日
十、十一、十二月分
十二月三十一日
一、二、三月分
三月三十一日

二、連名による通知書を嘱託員に廻しますから、嘱託員を通じ納付する。納税組合のある部落はぜひ利用していただく。

三、納付金額の三パーセントを奨励金として出す。
百パーセント納付の部落は年度末に於いて表彰する。

四、納付場所
支所管内　大谷支所
出張所管内　中龍出張所
本庁管内　和泉村役場

五、国民年金手帳の保管
検認の関係上役場で保管する

六、前納について
印紙による前納は一年以内であります。
現金による前納は年単位で十年まで納付できます。
この場合、多額の割引がありますから、被保険者の皆様はぜひ御利用下さい。
この外細部について不明のことは係に問合せ下さい。今だに届出のない人は至急届出をすませましょう。

遺児激励会

和泉村未亡人会は去る三月二十日、中学校卒業式の後、朝日中学校、東部中学校西校に於いて、両親を亡くした中学校卒業生十二名の激励会をしました。

村内の来賓をたくさんにお迎えし、会長より母を忘れずまじめな人間になつて大望を抱いて進んで下さいという励ましの言葉があり来賓からもそれ〴〵親切あふるる激励の言葉があつて、知事、和泉村未亡人会よりの記念品を送られて散会した。

(写真は激励会)

部落探訪
三面の由来

三面部落の山手に通称タナと言われている高台があり、こゝに扇状の田圃が開けている。その東側は岩石ひどく野獣も通れず、雑木さえ育たぬ荒地だったが、そこに只一本の老杉がそびえている。これから少し下った岩間から、コンノ〳〵と清水が湧いている。

今から三百余年前には、この一本杉の場所に小さな祠が建てられて居り、神体は三つ面の仏像が祀られていたとの事。祠の床下からは岩間を縫つて、きれいな水がホロホロとまるで極楽の調べにも似た美音をひびかせていたので、村人たちは朝な夕な仏像を礼拝し、お水もらいをしていた。

ところがこゝに「おふり婆々」という因業な老婆が祠のわきに住みつき、清水を汚し、祠を侵し仏を罵り始めた。村人達は大いに諫めたがその悪業はつのるばかり、遂に石の斧で祠を打ち破つてしまつた。その祟りはてきめんで、数日後に暗雲たれこめ連日連夜豪雨打ち続き、村人たちは大きい危険にさらされ、令員祠跡の裏山へ難を避けたが、遂に今の三面谷から物凄い土砂が濁流と共に流出し、忽ち辺りは変貌してしまつた。

水勢おとろえた後には只扇状の土砂がうず高く積つて、水源は全くかくれてしまつた。だが行くあてどもない部落の人々は再びこゝに生を求めて住居を植えたが、折しもその頃（養老元年頃か）泰澄大師が石徹白へ通過の途次、この話を聞かれ、非常に同情を寄せられ「水一滴も出ぬとはさぞ不便であろう」と石徹白神社の杉の枝を一本手折り、「之を祠の跡に植え生気を呼ぶまで川水を与えよ」とお諭しになつた。

村人たちは仰せの通り植えつけ毎日三度ずつ遠い川から水を運び熱心に之を続けているうちに、遂に杉は生気を呼び、あまつさえ附近の岩間から水晶の水がコンコン〳〵と流れ出しているではないかの斧」と呼び保管している。

朝日を受けて七色に光るこの清水を見た人々は小踊りして喜び、再び大師が通過されるを待ち厚く御礼申し上げ、大師と共に三ツ面の仏像を偲び喜びの祈りをさゝげたこの時大師は「之よりこの土地を三面と呼べ」と仰せられ、この呼び名が今日も用いられていると伝えられる。

今日この清水は飲料水として又防火用水として区民の生活を護り最近は文化の脚光を受けて一・五平方メートルの水道タンクが据られ、パイプが戸毎の台所へ配水されている。この水道工事の際六センチ×一三センチ程の石斧が発堀されたが、村人達は之を「おふり

人のうごき

【転任教員】

中田　英雄	日進小学校	大野市
佐々木篤司	日進小学校	足羽郡
服部　文英	日進小学校	武生市
嶋崎　静江	日進小学校	足羽郡
藤井　照子	日進小学校	坂井郡
林　正彦	大和小学校	福井市
栗田　利美	大和小学校	福井市
藤川　一芳	大和小学校	福井市
沢田　栄子	大和小学校	武生市
木倉　絹子	大和小学校	敦賀市
中川　一夫	朝日小学校	足羽郡
酒井　隆平	朝日小学校	坂井郡
三輪　泰子	朝日小学校	吉田郡
森　永高	大納小学校	県教委
吉田　義信	大納小学校	吉田郡
塚谷　和子	大納小学校	福井市
前川　敏子	大納小学校	勝山市
大味　富子	大納小学校	坂井郡
永田優一郎	東部中学校	武生市
牧野　幸夫	東部中学校	丹生郡
天立　陽山	東部中学校	勝山市
田辺　勝彦	朝日中学校	足羽郡
久保　昌義	朝日中学校	武生市
川端　正美	朝日中学校	勝山市
野村　徳行	大納中学校	福井市
石田　嘉彦	大納中学校	吉田郡

【新任教員】

佐々木光仁	日進小学校	新採用
藤田美樹男	日進小学校	〃
江川　慎一	日進小学校	〃
吉田トシ子	日進小学校	〃
尾崎　愛子	日進小学校	〃
前川　敏隆	大和小学校	〃
新郷　一郎	大和小学校	〃
田中　彰男	大和小学校	〃
佐々木外久子	大和小学校	〃
菅原　紀子	大和小学校	〃
朝倉　成宣	朝日小学校	〃
内田　邦司	朝日小学校	〃
石田　和子	朝日小学校	〃
出村　清一	大納小学校上庄小教	
野崎　慶子	大納小学校	新採用
坪口美那子	大納小学校	〃
山本　洋子	大納小学校	〃
三上　房子	大納小学校	〃
平　美智麿	東部中学校	〃
鈴木誠一郎	東部中学校	〃
中野千鶴子	東部中学校	〃
福井　真澄	朝日中学校	〃
亀広　進	朝日中学校	〃
大浦　恭博	朝日中学校	〃
林　ひろ子	朝日中学校	〃
駒野　興説	大納中学校	〃
杉原　吉彦	大納中学校	〃

【転任　中龍駐在所】
荒岸喜八郎　三国署へ

【就任　中龍駐在所】
三井　昭　大野署より

【転任　営林署】
大辻　一郎　和歌山県へ

【就任　営林署】
関森　修　大阪市より

【出生】

持穴　小沢　治和	辰男次男	
大谷　小沢　澄子	舟雄長女	
下山　森　武雄	忠雄三男	
下半原　林　たか子	昌彦長女	
東市布　田中日出美	光夫長女	
朝日　中内　喜恵	智利長女	
野尻　宮沢　里江	和雄長女	
上大納　登　満貴子	久男長女	
伊勢　奥野　光博	好三長男	
上大納　乃川みゆき	武美長女	
上半原　長谷川富美子	孝正長女	
箱ヶ瀬　美濃島妙子	健一長女	
伊勢　四島　忠志	守夫長男	
上半原　洞口いずみ	光次三女	
中龍　江島　正俊	正泰三男	
〃　宮浦　浩一	照一長男	
〃　福田　康之	忠男次男	
下半原　中森喜美子	七郎長女	
箱ヶ瀬　美濃島弘美	均　次女	
野尻　大牧　章雄	松之助長男	
下半原　横山　伸夫	三郎次男	
野尻　山本　千春	正行次女	
久沢　高瀬　早苗	武夫三女	
中龍　矢野　玲子	一光長女	
中龍　宮腰　正純	輝男長男	

【婚姻】

○岐阜県郡上郡白鳥町上村　金尾大谷	大川原八重子	
○野尻　宮原　敬司	大野市菖蒲池	
畑中　靖子	美濃島健一	
○箱ヶ瀬　森　美千代	名古屋市熱田区	
○上半原　三島　正利	金沢市百姓町	
○上大納　古川　りき	長谷川富美子	65才
○板倉　谷口　義光	谷口　雅信	4才
○野尻　篠嶋　君子	伊月　轟　亮之助	55才
○上半原　宮本かよ子	長谷川伸二	
杉本　道子	金沢市百姓町	

【死亡】

○上大納　安藤　鈴子	長崎　賢真	0才
○下半原　木島　三郎	愛知県北設楽郡稲武町	
○板倉　谷口　義光	上半原　古川　りき	65才
○野尻　篠嶋　君子	伊月　轟　亮之助	55才
○上半原　宮本かよ子	長谷川伸二	
杉本　道子	金沢市百姓町	
○岐阜県郡上郡白鳥町山下　百合	朝日　古川　りき	65才
○板倉　谷口　義光	上半原　長谷川富美子	0才
大野市横　篠嶋　君子	伊月　轟　亮之助	4才
○野尻　尾崎彦三郎	面谷　長嶋友三郎	55才
福井市毛矢町　荒川　延子	後野　松山　はる	87才
○上半原　三島　稔	下山　村上藤之助	66才
岐阜県郡上郡白鳥町曽我とみ子	下山　宮原　暢良	57才
○下半原　木島　三郎	朝日　野尻　道岸彦兵衛	21才
愛知県北設楽郡稲武町　安藤　鈴子	朝日　野尻　道岸彦兵衛	0才
○上大納　長崎　賢真	朝日　野尻　道岸彦兵衛	75才
愛知県海部郡弥富町青木千代子	新屋　雅子	0才
○岐阜県関市　鵜飼　豊	三島与三松	81才
久沢	阿部　敬子	0才
○上半原　宮本かよ子	持穴	
長谷川伸二	酒井　吉郎	67才
金沢市百姓町　杉本　道子	高崎　典子	2才

今からの稲作

この地方の水田は耕土の下に犁床があつて、これ以上の深耕にかわる方法は客土です。作り土三寸の水田に三寸の客土をして、肥料の施し方などを上手にすると、一〇アールの水田が、今までの二〇ア

一、深耕（作土の増加）

米一石とるには作り土一寸が必要で、四石の米をとるには四寸の作り土を必要とします。したがつて三寸の耕土で四石の米はとれないわけで、作土の多い事が米の増収に絶対必要な条件になります。

この地方においても特に重要な産業の一つであります。

近年各地で深耕（作土の増加）、密植、多肥の三つを併用した試験が行われ、効果をあげておりますが、今後、稲作の重点は、この三つの項目を組み入れた作り方に向つて行く傾向にあると思われます

二、密植

米のとれ高を支配する要素の一つに、穂数の増加があります。増加には密植の効果も認められており、各地の試験の中から密植の程度について調べてみると、三、三平方米（一坪）当り、一六〇株から一八〇株のものが最も増収しています。従来から山間部では低温、冷水のため多くの分けつにたよりより、株数を多くして穂数の増加につとめる方法を行つています。

今年は三、三平方米に一〇〇株（九寸×四寸）一株三本植の密植から始めるがよいと思います。倘稲の初期生育を早めに、中期生育をおさえ、後期を良化する作り方は密植によつて自然に効果があらわれてきます。

三、多肥

稲の必要な肥料を十分施して、病虫害の防除につとめて、各種の技術が上手に組合わされてゆけば件によつて差がありますが、大体一割から三割の増肥が必要です。

以上の三つの項目を組合せて、更に品種の選択、栽培法の改良、落葉などの腐つたものが混つてで

ールに相当することになり、八俵から十俵とれる水田はほとんど作土が多く、三寸位の作土では四俵から多くて六俵位が普通です。

客土の土としては、山の表土の少ない田は、深耕が客土を実施して密植する場合は、各種の条施し方などを上手にすると、一〇アールの水田が、今までの二〇ア

水害のため水田面積は少なくなつて、稲作りの人達にあたえた影響は大きなものであります。

日本の米の必要量の目標は一、三〇〇万屯で、昭和四十五年に目標量を達成する事になつていましたが、昨年は全国的な豊作のため一、二八六万屯と言うほとんど目標量の米がとれました。

日本の農家のなかでは、水田面積の一部を所得の多い農産物に切り替えて、残つた水田の反当りの生産をたかめて、稲作を一層有利なものにしようとつとめているものであります。何と言つても米作りは日本の重要産業の一つであり

木材引取税もメートル法に改正

本年一月一日より木材引取税がメートル法に改正され、その税率は次のとおりであります。素材の引取者は申告し納付して下さい。

素材一立方米（三、五九七石）について
針葉樹　百四十円
広葉樹　七十円

電発案 電発計画概要表（6時間ピークの場合）

項目	発電所名	九頭龍	葛ヶ原	勝原
発電方式		ダム水路	ダム水路	ダム水路
流域面積 (km²)		300.4	409.9	547.0
貯水池またはダム	満水位 (m)	560	420	910
	湛水面積 (km²)	8.5	2.1	0.9
	貯水量 (10^6m^3)	991.4	45.6	5.7
	有効貯水量 (10^6m^3)	189.5	9.6	1.8
	利用水深 (m)	90	5	6
ダム	形式	ロックフィル	重力	重力
	高さ (m)	125	60	50
	堤長 (m)	952	221	155
	体積 (10^3m^3)	6,290	155	60
水路亘長 (m)		1,650	2,890	2,150
発電計画	取水位 (m)	560	420	910
	放水位 (m)	415	304	227.5
	総落差 (m)	145	116	82.5
	基準落差 (m)	131	106.8	74.5
	流入量 年平均 (m^3/s)	24.7	36.9	48.5
	流入量 年総流入量 (10^6m^3)	780	1,163	1,528
	使用水量 最大 (m^3/s)	137	166	64
	使用水量 年平均 (〃)	24.7	36.9	47
	使用水量 冬期平均 (〃)	32.1	42.9	51
最大出力 (KW)		154,000	152,000	41,000
出力合計 (KW)			347,000	

北電案　貯水池及び調整池概要

項目		長野貯水池	後野貯水池	葛ヶ原調整池
貯水池（調整池）	集水面積（平方粁）	184.5	137.5	420.56
	湛水面積（〃）	6.69	1.21	0.28
	満水位標高（米）	550,000	550,000	949,000
	低水位標高（〃）	510,000	510,000	931,000
	利用水深（〃）	40,000	40,000	12,000
	有効貯水量（立方米）	184,845,000	26,925,000	2,450,000
ダム	型式	コンクリート重力式	コンクリート重力式	コンクリート重力式
	高さ（米）	113,000	79,000	92,000
	容積（立方米）	830,000	350,000	49,000

発電所設備概要

発電所名	新設 湯上	新設 西勝原第三	下流影響 西勝原第一	下流影響 西勝原第二	下流影響 富田壁川 鳴市荒倉	計
最大使用水量（立方米毎秒）	120.00	55.00	22.26	26.40	一	
有効落差（米）	197.00	108.00	116.00	97.90	一	
発電力（キロワット）	200.00	50.000	20,800	7,200		
年間発生電力量 (1,000 KWH)	429,290	258,860	△99,980	△20,200	98,930	666,280
冬期発生電力量（12月～3月） (1,000 KWH)	127,980	108,190	△36,600	△ 9,090	72,000	307,480
工事費（百万円）		28,620	—	—	—	28,620
工事期間		着工 35年6月 竣工 41年12月				